

長岡大学学生12名が 鍛冶の仕事場を訪問

11月22日午後、長岡大学の権(クオン)先生からの要請で職業教育ゼミナールの学生ら12名が、与板の打刃物の現場を見学。

クオン先生は経済経営学部で環境経済学を教えるが、先月の造形大フェアでちょうど展示ブースで隣り合わせ、与板打刃物に関心を持たれた。久住会長に直談判されて、この日のゼミ学生の訪問となったもの。

久住会長と大平が二班に分かれた学生たちを鍛冶場に案内。河政さんの鑿づくり、古見さんの包丁、高木さんの鉾づくり工程、そして中野さんの鉋づくりの実際を見学し一巡して、最後は刃物工芸館で全員そろってのまとめのミーティングとなった。



イマドキの若者が、きつい・暗い・汚い3Kの鍛冶の現場を見てどんな感想や意見を持ったのだろう、と興味がわいた。

「最初は汚いと感じて驚いたが、見ていて目の前で鉄が打たれて製品に仕上がっていくことに感動した。どうしたら与板の打刃物のすごさを広く知らせることができるか、まず自分が人に与板に行き行ってすごかったよ、と伝えることから始めようと思った。」

「僕の実家は魚沼のお寺だが、これまで寺を継ぐということの重要性を考えなかった。与板の鍛冶屋さんの後継者不足問題を知って、こうした伝統を引き継ぐということの大変さと意味を、自分の問題としても考えることができた。」

「これまでいろんな企業の現場を見てきたが、今日が一番面白かった。人の手によって物が造られ生み出されていくというすごさを実感できた。こうした伝統の技が残ってほしいと思った。」

ものづくりの心は、若者にもきちんと伝わっていたことにビックリ。こちらの方が感動してしまった。

クオン先生からは「与板製品の特徴である鍛冶の切れ味は、きっと韓国中国の木造建築・歴史的建造物にもニーズは高いのではないか。どのように韓国などでは大工道具が調達されているのか、自分も調べてみたい。」「新潟大学の学生たちにも大工道具の新しいアイデアなど、問いかけてみます。」と、熱いエールをいただいた。ご協力いただいた会員各位に感謝します。

県の地域産業需要創出緊急支援事業に申請

11月27日、県の産業労働観光部産業振興課による事業のヒアリングが行われた。久住会長が、申請の理由と与板打刃物匠会の取組みや今後の活動について説明。

倍率は高いが、こうしたアピールがあってこそ道はひらける。久住会長の熱意と打刃物への愛情が選定評価委員に伝わることを祈っている。